

# 最上町未来予想図

突然ですが、勝手に20年後の最上町を予想させていただきます。

最上町民は5,000人にまで減りました。しかし、関係人口（今回は準町民と表現します）は10,000人いて、年間通じてワーケーションや、長期休暇に家族で滞在する方が増えつづけています。準町民と町民は仲良しで、まるで親戚や友人のように、訪れるたびにバーベキューや芋煮でもてなしています。子どもたちは遊びの先生となり、準町民と一緒に山登りや川遊びをして、植物や魚の名前を得意げに教えたりしています。反対に、準町民は美味しい珈琲の淹れ方や、めずらしい料理方法、面白い本のことなどを教えてくれます。地域の伝統行事も、他の市町村では人手不足で止めてしまう中、最上町では準町民が手伝ってくれて、むしろ以前より盛り上がり、観光資源になりました。

もともと食料自給率の高い町でしたが、エネルギーも、太陽光、水力、バイオマスなど、すべて地産地消でまかなわれ、森林資源も循環されています。森が管理されるようになると、熊も里へ下りてこなくなりました。そして、いつの間にか遊休農地も減りました。人口は減りながらも、移住者が増え、半農半Xスタイルの兼業農家が増えたからです。IT系の会社の社長も米作りにハマっているようです。

行政の仕事も少しずつ民間業者に委託され、町のサービスも柔軟になりました。商店街はシャッターが開き、新しいお店も増えて活気づいています。各集落へは商店街が運営する移動販売車が出張します。集落の公園には最上町の木材を使った遊具があって、子どもたちの笑い声が響きます。その横にある東屋でおばあちゃんたちがお茶をしながらニコニコ見守っています。

そうそう、街なかにはお洒落な図書館もできたんです。子どもたちは学校帰りにここで勉強を教え合って宿題を済ませます。おじいちゃんが本を読んで思いついた最上町ならではのビジネスが高齢者の間で広まって、後期高齢者で年収1000万プレイヤーも出現。やりがいと共に健康になり、入院患者や福祉施設の入所者が減ってしまいました。

その他にも、100歳のおばあちゃんたちが企画するものがみの伝統料理ワークショップは、町内外から人気で、動画投稿サイトでも再生回数3万回を超えました。

最上町は国内外から注目を浴び、視察団体も多く、瀬見温泉も赤倉温泉も連日満室で、予約が取れないとのこと。空き家は全てリノベーションされ、移住者・ワーケーション客などの滞在に活用されています。会社の拠点を関東から最上町に移す企業も増え、最上町の税収は上がりインフラ整備も完璧。こうして最上町は名前に負けない最上の町になりました。

これまで様々な方に話をうかがってきて、見えてきたのは最上町の未来でした。しかも楽しい未来。勝手な未来予想図を描きましたが、決して不可能ではないと信じています。想像することを止めた時、人は退化していくと聞きました。猫型ロボットが住むような未来ではないけれど、確実に心を豊かにしていく未来は、田舎だからこそ創ることができていると思っています。

最後に、快く取材を受けてくださったみなさま、毎回読んでくださったみなさま、本当にありがとうございました！

## ●最上町地域おこし協力隊活動報告会

日時：2021年7月31日（土）10:00～11:00

場所：みつざわ未来創造館らいず2階（最上町大字満澤309-1）

※申し込み不要

※新型コロナ感染対策として、ご来場前の検温とマスクの着用をお願い致します

※ご来場のみなさまに小報ものがみをまとめた冊子をプレゼント致します（先着30名様）

2021年7月21日発行

編集：最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子

小報ものがみ

最終号

